

2025年3月期 中間決算説明会資料

2024年11月28日

トヨーカネツ株式会社

代表取締役社長 大和田能史

- 1. 2025年3月期上半期(2024年9月期)
決算概要ならびに進捗について**
- 2. グループ中期経営計画の進展について**
- 3. ESG経営の推進について**

1. 2025年3月期上半期(2024年9月期) 決算概要ならびに進捗について

売上高は、全セグメントで増収
営業利益・経常利益・純利益ともに、大きく増益

(単位:百万円)

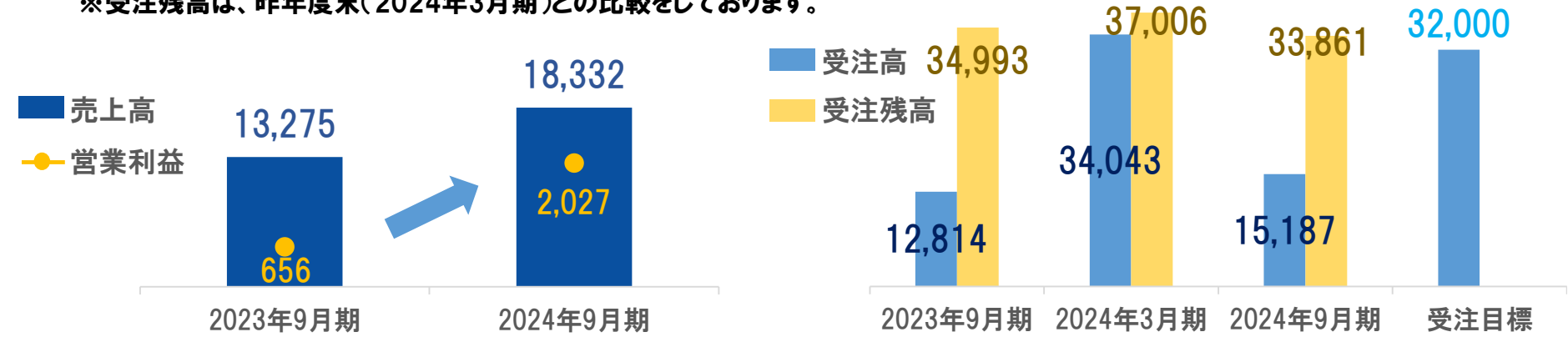
	2023年9月期 実績	2024年9月期 実績	前年同期 増減	増減率	通期予想 (2024.8公表)	達成率
売上高	23,140	28,475	+ 5,334	23.1%	59,500	47.9%
営業利益	551	1,917	+ 1,365	247.4%	3,900	49.2%
営業利益率	2.4%	6.7%	+4.3pts	—	6.6%	—
経常利益	877	2,038	+ 1,161	132.3%	4,100	49.7%
親会社株主に帰属する 中間純利益	402	1,616	+ 1,213	301.4%	2,800	57.7%

工事完了案件の増加、プロジェクトの順調な進捗で増収増益
受注高は、EC・流通およびサービス案件中心に概ね計画通り

(単位:百万円)

	2023年9月期 実績	2024年9月期 実績	前年同期 増減	増減率	通期予想 (2024.8公表)	達成率
売上高	13,275	18,332	+ 5,057	+38.1%	37,000	49.5%
営業利益	656	2,027	+ 1,370	+208.7%	4,000	50.7%
営業利益率(%)	4.9%	11.1%	+6.2pts	—	10.8%	—
受注高	12,814	15,187	+ 2,372	+18.5%	32,000	47.5%
受注残高 ※	37,006	33,861	▲ 3,145	▲ 8.5%	—	—

※受注残高は、昨年度末(2024年3月期)との比較をしております。

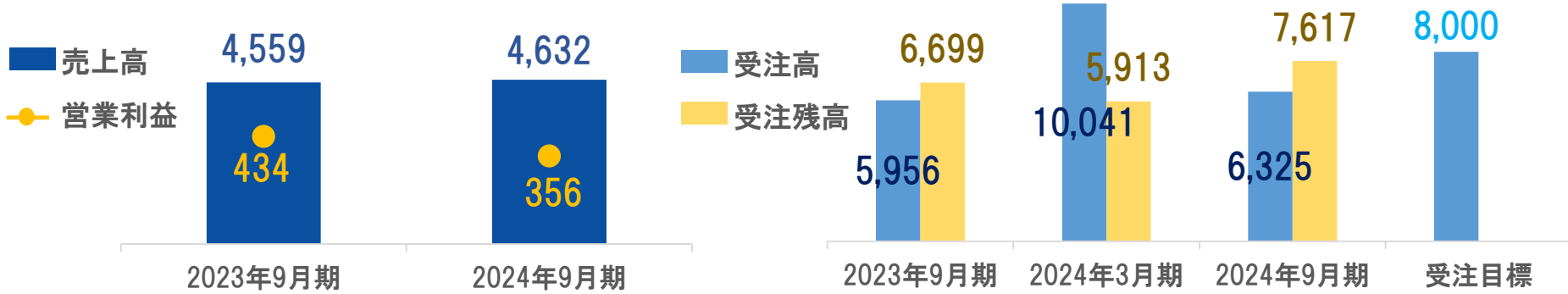


工事量増加により増収も、仕掛け案件が多く減益(原価回収基準※1)
受注高は、計画通り順調に推移

(単位:百万円)

	2023年9月期 実績	2024年9月期 実績	前年同期 増減	増減率	通期予想 (2024.8公表)	達成率
売上高	4,559	4,632	+ 72	+1.6%	9,500	48.8%
営業利益	434	356	▲ 77	▲ 17.8%	710	50.2%
営業利益率(%)	9.5%	7.7%	▲1.8pts	—	7.5%	—
受注高	5,956	6,325	+ 369	+6.2%	8,000	79.1%
受注残高 ※2	5,913	7,617	+ 1,704	+28.8%	—	—

※1 プラント事業で適用。履行義務を充足する際に発生する費用のうち、回収することが見込まれる費用の金額で収益を認識する方法。
※2 受注残高は、昨年度末(2024年3月期)との比較をしております。

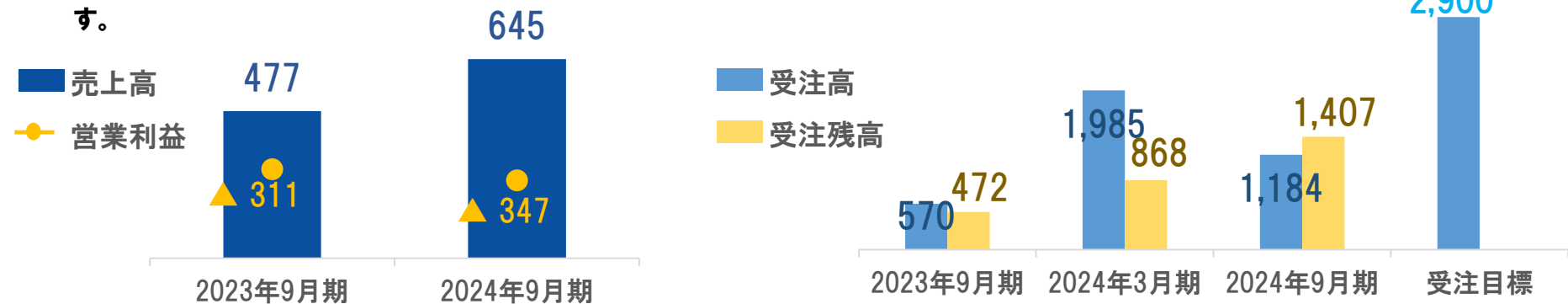


見積案件は増加、研究開発の負担により営業損失
受注高は、主に海外子会社の案件獲得による

(単位:百万円)

	2023年9月期 実績	2024年9月期 実績	前年同期 増減	増減率	通期予想 (2024.8公表)	達成率
売上高	477	645	+ 168	+ 35.2%	2,400	26.9%
営業利益	▲ 311	▲ 347	▲ 35	—	▲ 430	—
営業利益率(%)	—	—	—	—	—	—
受注高	570	1,184	+ 613	+ 107.6%	2,900	40.8%
受注残高 ※2	868	1,407	+ 538	+ 62.0%	—	—

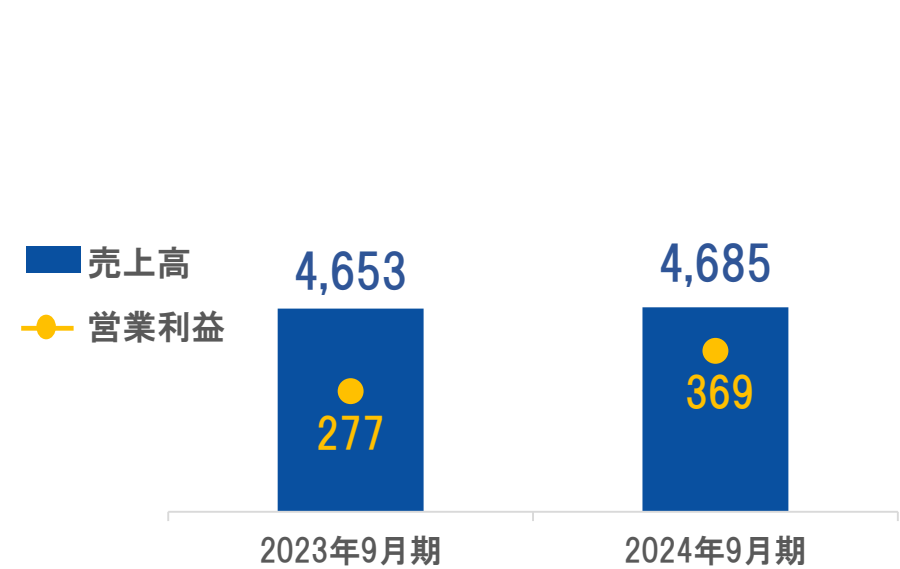
※1フィジビリティスタディ(実現可能性調査) ※2受注残高は、昨年度末(2024年3月期)との比較をしておりま
す。



環境分野2社の人材増強と処理能力向上が奏功し増収増益
M & Aも2件成立

(単位:百万円)

	2023年9月期 実績	2024年9月期 実績	前年同期 増減	増減率	通期予想 (2024.8公表)	達成率
売上高	4,653	4,685	+ 32	+0.7%	10,100	46.4%
営業利益	277	369	+ 91	+33.0%	660	56.0%
営業利益率(%)	6.0%	7.9%	+ 1.9pts	—	6.5%	—



みらい創生

環境・防災

産業機械

建築



環境リサーチ株式会社



環境計測株式会社

Eco Analysis Corporation



坂田電機株式会社

SAKATA DENKI Co., Ltd.



トヨコーケン株式会社



M&M PULL MACHINERY & ENGINEERING CO., LTD.

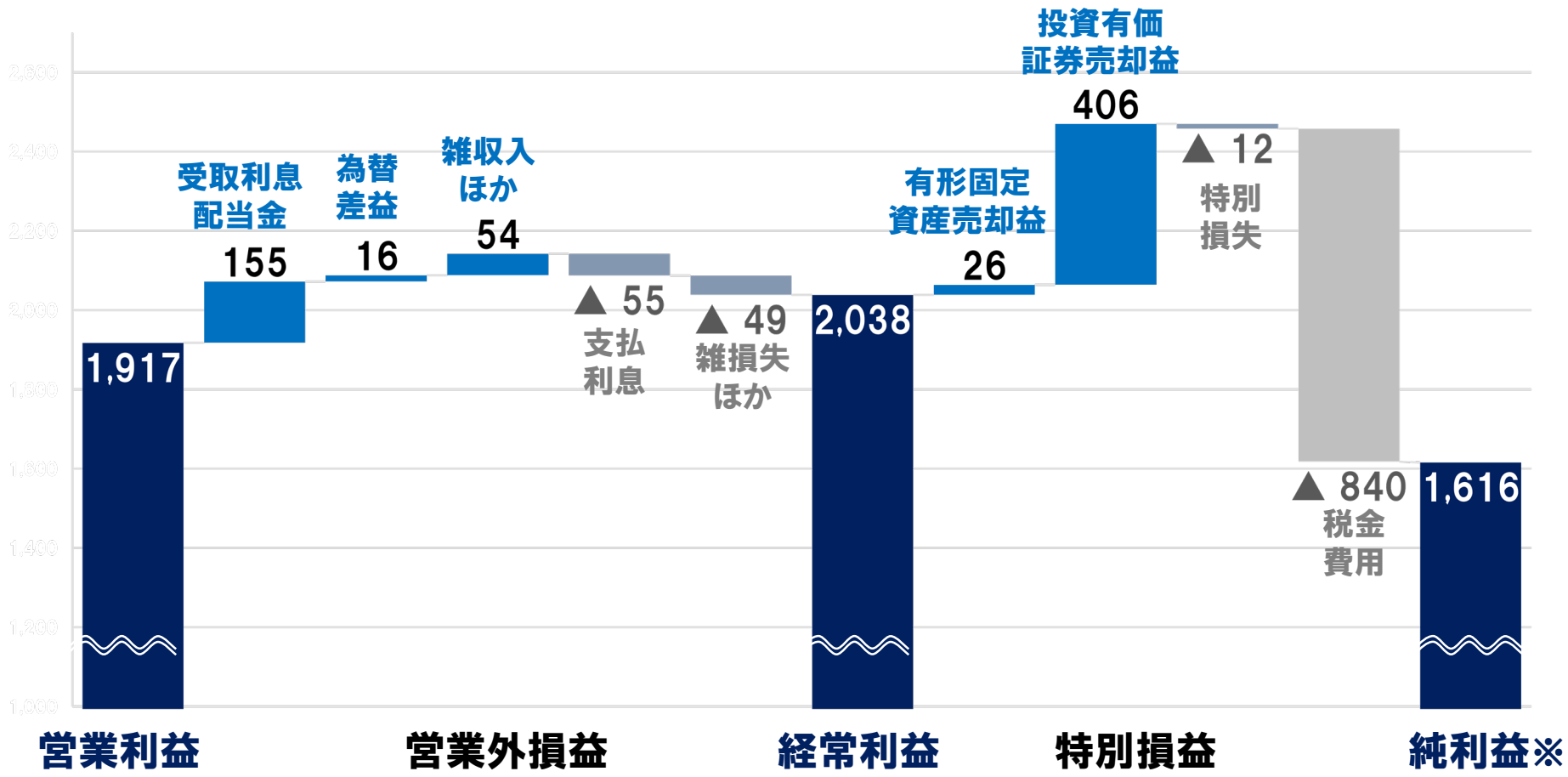
マックスプル工業株式会社



トヨカネツビルテック株式会社

主な営業外収支の内訳は以下のとおり

(単位:百万円)



※親会社株主に帰属する中間純利益

売上債権の回収による短期借入金の返済や
政策保有株式売却に伴う評価差額金減少でバランスシートがスリム化

(単位:百万円)

流動資産の主な増減内訳 (前期比:▲6,864) ○現金及び預金: ▲1,210 ○受取手形、売掛金及び 契約資産: ▲5,315	資産 60,838 (前期比:▲7,053)	負債 23,708 (前期比:▲6,430)	負債の主な増減内訳 (流動負債 前期比:▲5,893) (固定負債 前期比:▲ 537) ○短期借入金: ▲4,800 ○支払手形及び買掛金:▲308 ○未払法人税等: ▲733
固定資産の主な増減内訳 (前期比:▲ 188) ○有形固定資産: 584 ○投資その他の資産:▲761		純資産 37,129 (前期比:▲622)	純資産の主な増減内訳 ○其他有価証券 評価差額金: ▲ 433 ○親会社株主に帰属する 中間純利益: 1,616 ○剰余金の配当: ▲1,784

(前期比=2024年3月期末比)

売上債権の回収および政策保有株式の売却により
短期借入金を返済した結果、現預金が減少

(単位:百万円)

	2023年9月期	2024年9月期	前年同期増減
現金・現金同等物 期首残高	6,921	8,285	+ 1,364
営業キャッシュフロー	549	6,074	+ 5,286
投資キャッシュフロー	▲ 435	▲ 695	▲ 21
財務キャッシュフロー	3,124	▲ 6,632	▲ 9,756
現金・現金同等物に係る換算差額	44	39	▲ 5
現金・現金同等物の増減額	3,282	▲ 1,213	▲ 4,496
現金・現金同等物 期末残高	10,203	7,071	▲ 3,132

営業キャッシュフロー（主な要因）		投資キャッシュフロー（主な要因）	
税金等調整前四半期純利益	2,458 (+)	固定資産取得による支出	946 (-)
売上債権及び契約資産の減少	5,359 (+)	投資有価証券売却による収入	456 (+)
仕入債務の減少	1,374 (-)	財務キャッシュフロー（主な要因）	
契約負債の増加	1,088 (+)	短期借入金の減少額	4,800 (-)
法人税等の支払	1,417 (-)	配当金の支払額	1,775 (-)

8月に上方修正した業績予想数値の達成に向け 各セグメントともに順調に進捗

セグメント等	通期予想に対する進捗状況
物流ソリューション事業	➤ 上期の完工案件増加に加え、通期計画に基づく各工程の情報連携高度化で、製造の前倒しを実施した結果、業績の下期偏重が解消
プラント事業	➤ 当初の計画通り、順調に工事が進行
次世代エネルギー開発事業	➤ 次世代エネルギー向けタンクのフィジビリティスタディ業務は増加傾向 ➤ 大型液化水素タンク研究(NEDO助成事業)は計画通りに進捗
みらい創生事業	➤ M & Aによる業績反映は、来年度 (坂田電機(株)は来年3月、マックスプル工業(株)は来年1月にグループイン予定)

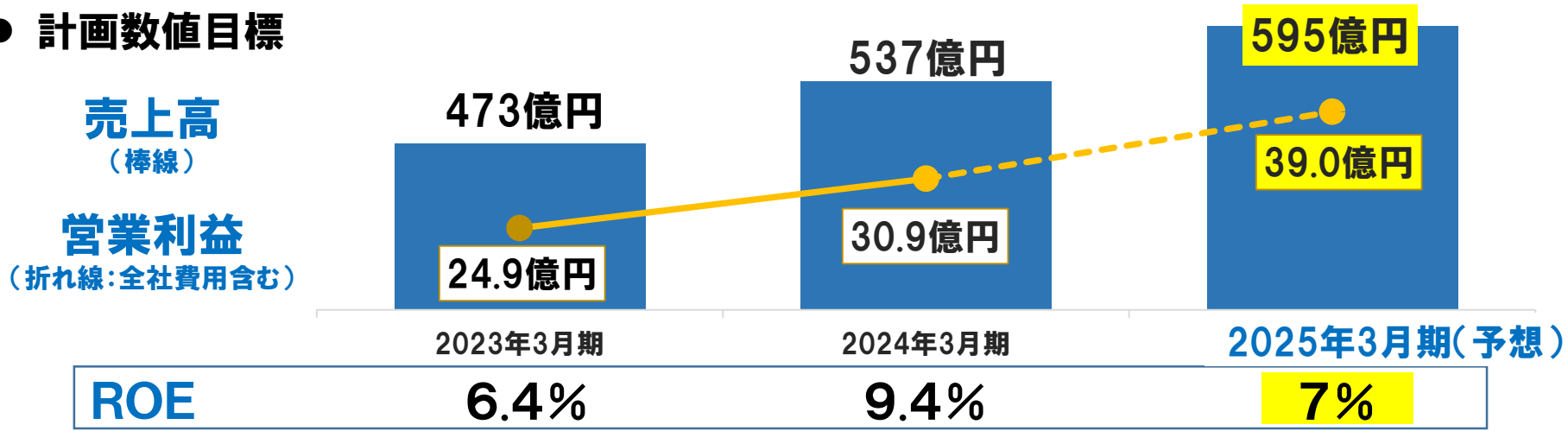
	実績		実績	通期予想	2025年度 進捗率
	2023年9月期	2024年3月期	2024年9月期	2025年3月期	
売上高	23,140	53,787	28,475	59,500	47.9%
物流ソリューション事業	13,275	32,491	18,332	37,000	49.5%
プラント事業	4,559	9,442	4,632	9,500	48.8%
次世代エネルギー開発事業	477	1,497	645	2,400	26.9%
みらい創生事業	4,653	10,013	4,685	10,100	46.4%
その他	332	629	308	500	—
調整額 ※1	▲ 158	▲ 285	▲ 129	—	—
営業利益	551	3,090	1,917	3,900	49.2%
物流ソリューション事業	656	3,271	2,027	4,000	50.7%
プラント事業	434	708	356	710	50.2%
次世代エネルギー開発事業	▲ 311	▲ 481	▲ 347	▲ 430	—
みらい創生事業	277	786	369	660	56.0%
その他	65	86	130	120	—
調整額 ※1	▲ 570	▲ 1,281	▲ 620	▲ 1,160	—
経常利益	877	3,579	2,038	4,100	49.7%
当期純利益 ※2	402	3,554	1,616	2,800	57.7%
ROE		9.4%		7%	
受注高	19,342	46,071	22,697	42,900	52.9%
物流ソリューション事業	12,814	34,043	15,187	32,000	47.5%
プラント事業	5,956	10,041	6,325	8,000	79.1%
次世代エネルギー開発事業	570	1,985	1,184	2,900	40.8%
受注残	42,165	43,788	42,886	—	—
物流ソリューション事業	34,993	37,006	33,861	—	—
プラント事業	6,699	5,913	7,617	—	—
次世代エネルギー開発事業	472	868	1,407	—	—

(単位:百万円)

※1 調整額は、各セグメントに帰属しない全社費用等です。 ※2 親会社株主に帰属する中間純利益および当期純利益

現中計の各施策の推進により計数達成を目指す 財務戦略に基づき成長路線確立のための投資も計画通り実行

● 計画数値目標



● 財務戦略 3ヵ年計画(累計)

営業CF
約100億円

(参考)
減価償却費
約30億円

必要に応じた
資金調達

配当金
30億円以上

成長投資
研究開発
100億円規模

定常設備投資

ワーキング
キャピタル

- 配当性向50%以上: 2023年3月期12.0億円・2024年3月期17.8億円
- 成長投資: (株)スクラムソフトウェア・木本産業(株)・坂田電機(株)・マックスプル工業(株) グループイン など
- 人材投資: ベースアップ・採用強化・研修メニュー高度化 など
- 設備投資: 和歌山工場(BCP対策設備・新工場建設) など
- 研究開発: 物流ソリューション製品開発・大型液化水素タンク研究 など

PBR改善など企業価値向上のため積極的に施策を推進

 https://www.toyokanetsu.co.jp/pdf/toyo_kanetsu_23111302.pdf

● 事業成長と収益性の向上

- 第1四半期の業績進捗結果に基づき、8月に業績予想を上方修正

 <https://www.toyokanetsu.co.jp/pdf/TKK20240809-3.pdf>

● 資本・財務戦略の強化

- 株主還元への積極的な取り組み
- 政策保有株式を売却し純資産比率9.0%に(2024年9月末時点)

● 積極的なIR活動の実践

- 機関投資家との対話量が前年比で1.7倍に増加
- 社長登壇の個人投資家セミナー地方都市開催や株主対話施策の拡充

初の試みとして「株主様向け工場見学会」を和歌山工場（有田市）にて実施

- 多数応募の中から
ご当選された約30名
の個人株主様にご参加
盛況のうちに閉会



株主還元について

株主還元方針

- 連結配当性向:50%以上(1株当たり年間100円配当を下限とします。)
ただし、大規模な資金需要が発生した場合にはこの限りではありません。
- 連結総還元性向は設定しないものの、業績動向などにより機動的に対応
- 本方針の適用期間:2023年3月期から2025年3月期までの3期とし当該期間終了時点で見直し

● 2025年3月期年間配当は182円を予定

	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期 (2024年5月予想)	⇒	2025年3月期 (2024年8月予想)
1株当たり 年間配当金	145円	147円	229円	163円		182円
連結配当性向	50.8%	50.1%	50.2%	50.3%		50.1%

● 中間配当(9月配当50円)の復活

 <https://www.toyokanetsu.co.jp/pdf/TKK20241114-2.pdf>

● 自己株式(当社普通株式)30万株を消却 (11/29消却予定)

➤ 消却後の発行済株式総数は8,023,074株、うち自己株式数は231,176株

 <https://www.toyokanetsu.co.jp/pdf/TKK20241114-1.pdf>

2. グループ中期経営計画の進展について

各事業の基本方針と重点施策

物流ソリューション事業

高成長企業への進化

- 業務領域の拡大
- 提案力の向上と顧客領域の拡大
- 人材育成・確保によるサービス事業強化
- 映像とデータを融合した新ソリューション開発

プラント事業

安定したエネルギーインフラへの寄与

- メンテナンス需要の継続受注および新規取込みによる安定収益確保
- 協力会社との協業による効率追求
- 実績と知見を基にした活躍領域の拡大

次世代エネルギー開発事業

次世代エネルギーに対応する 高度な技術力の獲得と参画

- 燃料アンモニア・MCH※・液化CO₂などの貯蔵ニーズへの取組み
- 海外市場におけるタンク新設需要の取込
- 大型液化水素タンクの建設技術(設計・溶接検査・施工)の獲得

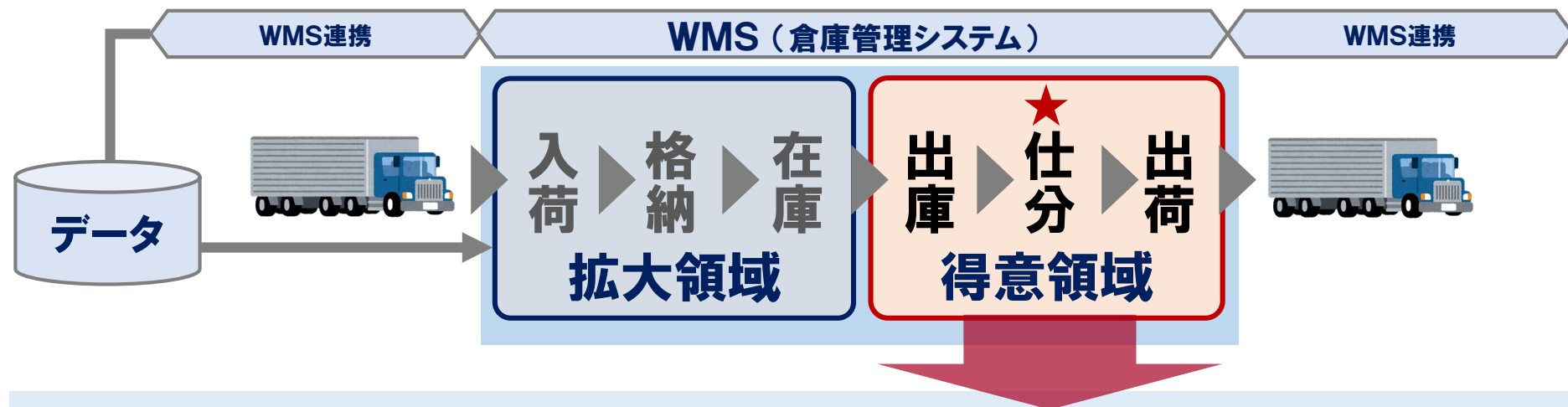
※MCH (メチルシクロヘキサン) 常温・常圧で保管可能な水素キャリアのひとつ

みらい創生事業

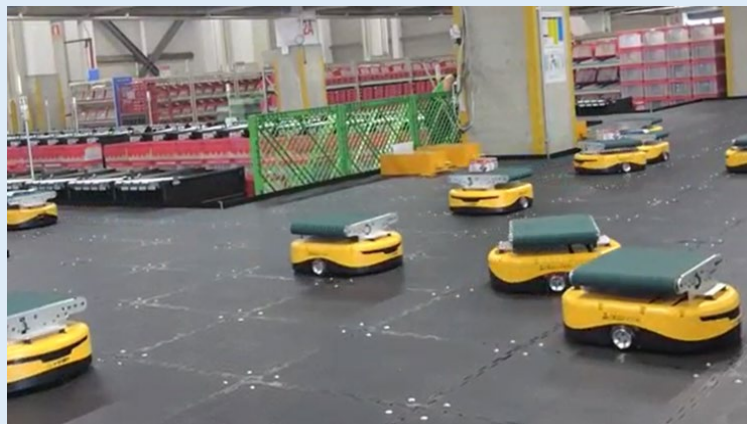
グループの成長を加速させる 第3の事業確立への挑戦

- 環境領域のM&Aを含めた事業拡大
- 各社の競争力強化による安定収益化
- 保有技術・ノウハウ及び外部連携によるビジネスモデルの変革

「提案力の向上と顧客領域の拡大」施策の進展



得意領域のソリューションをさらに深掘り



- 当社が改良を手掛けたAMR※を活用した物流センターが稼働開始
- お客様の課題に寄り添い最適解を探求することで業界をリード

※AMR(Autonomous Mobile Robot)自律走行搬送ロボット

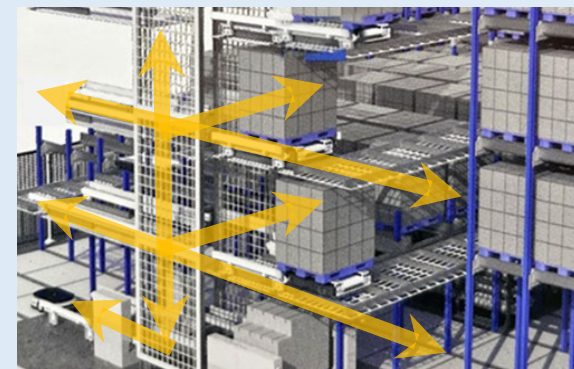
得意なEC・流通業界を中心に、新規およびリニューアル需要に対応

「業務領域の拡大」施策の進展



入荷～出荷まで全体をソリューションする対応力が向上

- 独自ノウハウに基づいた次世代型自動倉庫(3Dパレットシャトル)による価値創出
- 当社独自WMSの開発進展



3Dパレットシャトルは、機械メーカーへ納入決定するなど
今後の領域拡大に寄与

「協力会社との協業による効率追求」施策の進展

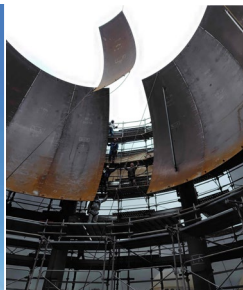
- 常駐施工現場・全国14か所（● 2か所増加・スポット対応の現場を除く）
 - 常時100基以上をメンテナンス
- 現場監督機能を受け持つTKKプラントエンジの増員
 - 6名増員（上半期）
- 新たにグルーピングした木本産業の活用
 - 常駐現場の約7割に人材を投入



慢性的な人材不足に対応した体制が機能発揮



西日本で製造中の球形タンク



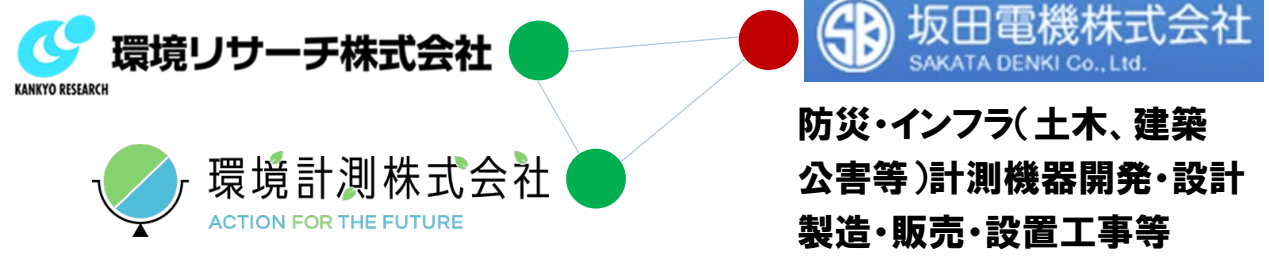
メンテナンス中の原油タンク



※写真提供ご協力
コスモ石油株式会社様 / 昭和四日市石油株式会社様（順不同）

防災、インフラ関連の計測技術やノウハウに強みを持つ坂田電機(株)
手動ウィンチに強みを持つマックスプル工業(株)のM & Aが成立

環境・防災



成長・拡大

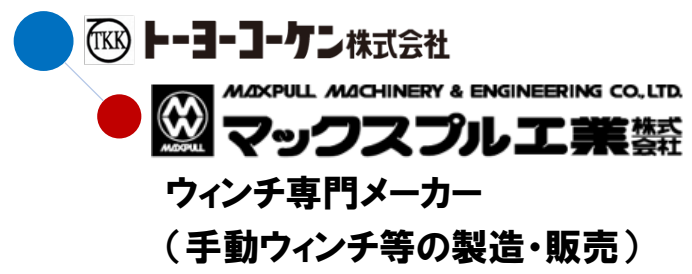
環境・防災ソリューション
を通した
新たな価値の提供

グループ各社の「リソースをつなげる」ことでビジネスを加速・拡張

建築



産業機械



建築・土木から店舗
スポーツ施設・船舶まで
電動・手動小型荷揚機の
活躍領域を拡大

坂田電機(株)の株式取得 <https://www.toyokanetsu.co.jp/pdf/f49dbcaf33a8a82141d2c468110ff57ab1af4c76.pdf>
マックスプル工業(株)の株式取得 <https://www.toyokanetsu.co.jp/pdf/TKK20241023-1.pdf>

物流ソリューション事業

● 日本ものづくりワールド2024「工場設備・備品展」

➢「業務領域の拡大」「顧客領域の拡大」を狙い、製造業等におけるニーズ顕在層へアプローチ

次世代エネルギー開発事業

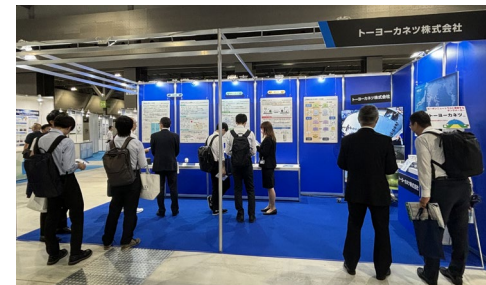
● AXIA EXPO2024「水素・アンモニア次世代エネルギー展」

➢「燃料アンモニア・液化CO2などの貯蔵ニーズへの取組み」を狙い、次世代エネルギービジネス推進層へアプローチ

● NEDO 水素・燃料電池成果報告会2024

➢「液化水素貯槽の大型化に関する研究開発」と題し、研究成果を発表

 <https://www.toyokanetsu.co.jp/info/2024/0820/000803.html>



みらい創生事業

● 「メンテナンスレジリエンスTOKYO2024」 トーヨーコーケン

➢「法面ウォーカー」「昇降力」などの拡販を狙い、建築・土木関係層へアプローチ

● 「持続可能なプラントEXPO2024」 環境計測

➢ 水質常時監視など「水」に関するソリューションビジネス拡大を狙い、水位・水質管理関係層へアプローチ



3. ESG経営の推進について

社 是

わが社は 常にすすんで よりよきものを造り 社会のために奉仕する

10のマテリアリティと対応するSDGs目標

事業を通して解決し
価値向上を目指す課題

- 1. 気候変動による事業
環境変化への対応
- 2. 国内人口減少への
対応



物流ソリューション
労働人口減少



プラント・次世代エネルギー開発
カーボンニュートラル



みらい創生
生活環境リスク

持続的な企業価値向上
のために取組む課題

- 3. 人材の育成と活用
- 4. 新技術の開発と活用
- 5. パートナー企業との
協業推進
- 6. 生産性の向上

これらの
前提となる課題

- 7. 安全衛生の確保
- 8. コンプライアンス・
ガバナンスの堅持
- 9. リスクマネジメントの
高度化
- 10. 積極的なチャレンジ
やスピード感がある
企業風土への改革



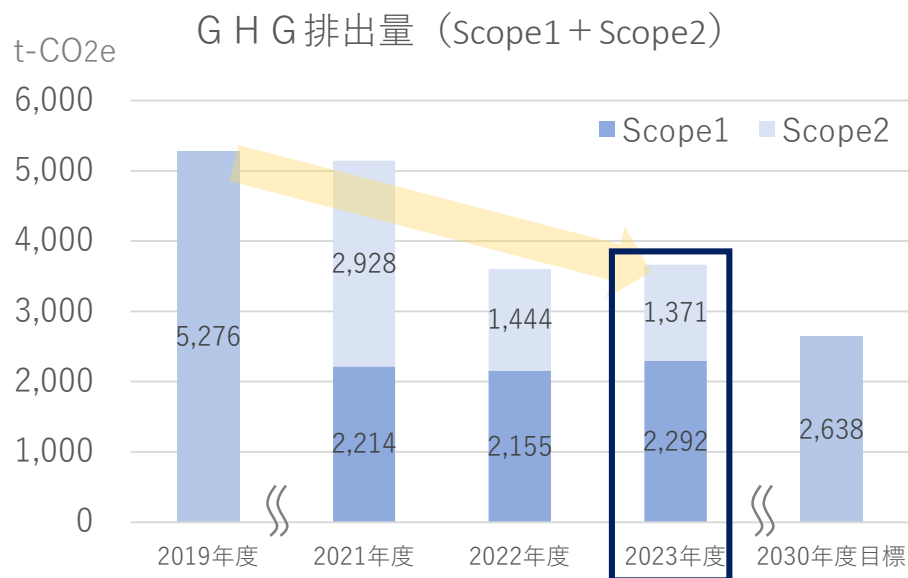
ESG視点に立った企業価値向上を目指し、活動をモニタリング その実態をTKKレポート(統合報告書)で公表

TKKレポート2024 https://www.toyokanetsu.co.jp/pdf/tkk_report2024.pdf

●E)環境

A 事業を通して解決し価値向上を目指す課題

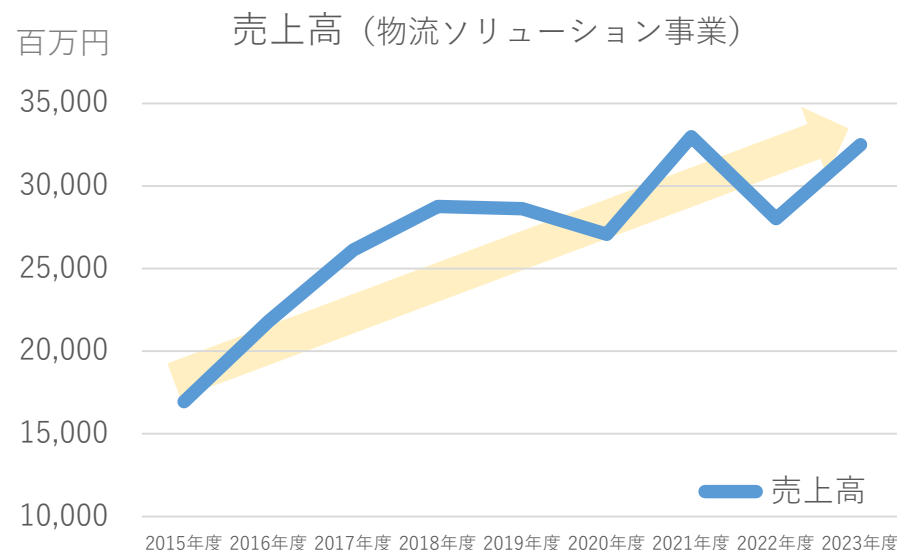
(1)気候変動による事業環境変化への対応



2019年を基準に2030年までに50%削減
⇒2023年度は基準年の69.4%に

A 事業を通して解決し価値向上を目指す課題

(2)国内人口の減少への対応

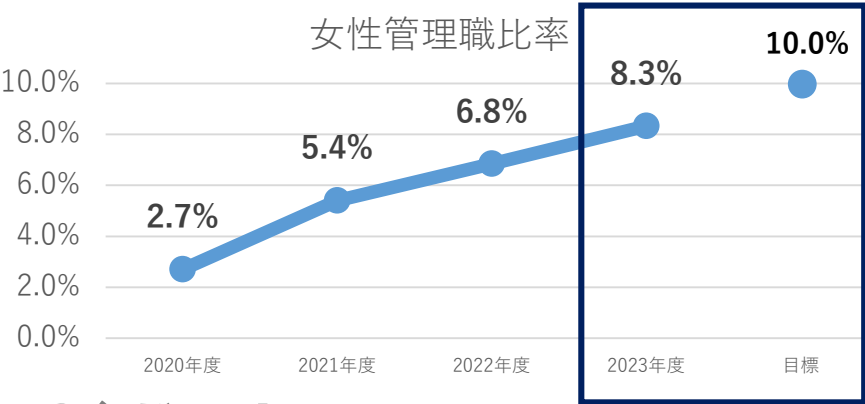


物流センターの省人化・自動化システム
導入により国内労働人口の減少へ対応

●S)社会

B 持続的な企業価値向上のために取組む課題

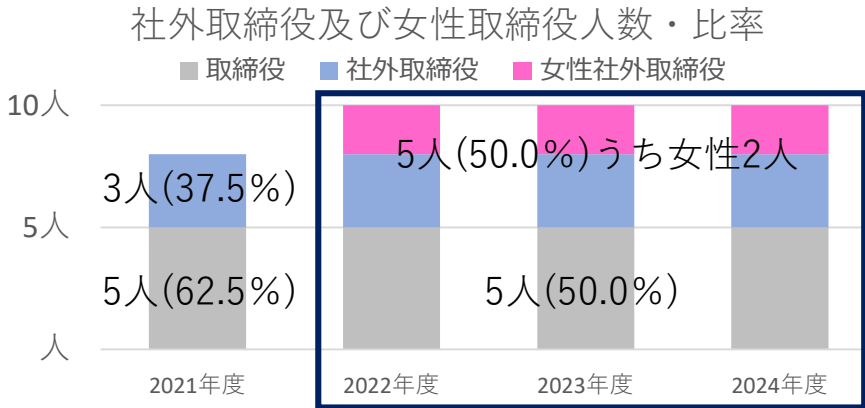
(3)人材の育成と活用



●G)ガバナンス

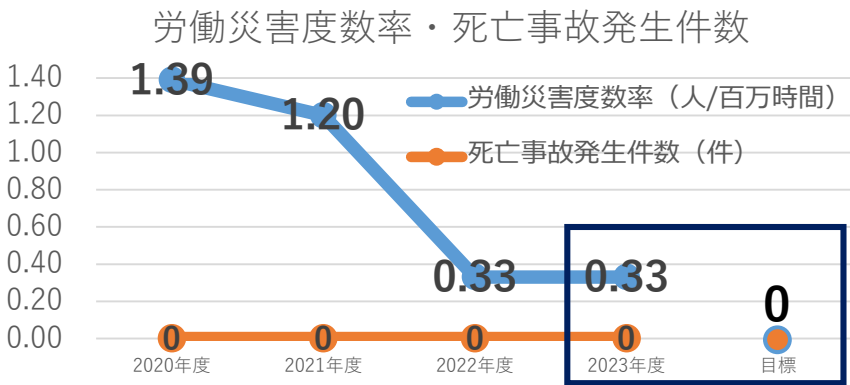
C これらの前提となる課題

(8)コンプライアンス・ガバナンスの堅持



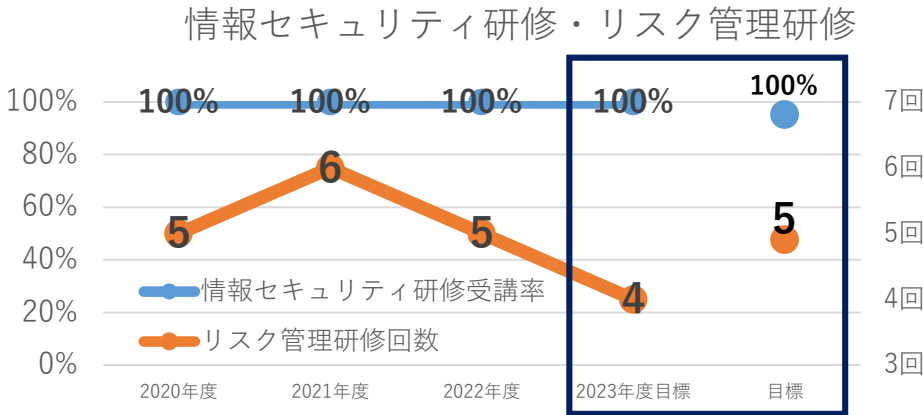
C これらの前提となる課題

(7)安全衛生の確保



C これらの前提となる課題

(9)リスクマネジメントの高度化



ESG経営実践の具体例

● “3つの約束”実現による社員エンゲージメントの向上

➤ 「夢とやりがい」 キャリア形成とリスキリングの推奨

- ✓ 経営人材育成に向けた資格取得・検定受験奨励とインセンティブの付与
- ✓ 自己研鑽のための書籍等購入資金補助や研修メニューの高度化

➤ 「風通しの良い職場」 対話による企業風土の改善

- ✓ 「経営層へのインタビュー」施策による社員と役員間のギャップ解消
- ✓ 「社長のおごり自販機」設置などを通じた社員同士のコミュニケーション促進

➤ 「処遇の改善」 安定した就労環境の整備

- ✓ 継続的なベースアップ
- ✓ 新卒社員等に対する奨学金 ( 独立行政法人 日本学生支援機構 Japan Student Services Organization) 返還支援の開始
- ✓ プラント事業における屋外現場の猛暑環境に対応したサマータイム制導入

ESG経営実践の具体例

●「トヨーカネツグループ人権方針」策定による企業責任の明確化

 <https://www.toyokanetsu.co.jp/sustainability/social/humanrights.html>

● 知名度向上施策を通じたブランド力の強化

➢ IR・SR施策の増強

➢ スポーツ選手(プロサーファー稲葉玲王選手)のサポート協賛

<https://www.toyokanetsu.co.jp/info/2024/0621/000800.html>

➢ スポーツ施設ビルボード(横浜スタジアムバックネット)

➢ 交通施設ビルボード(東陽町・東京・浜松町モノレール・品川新幹線・羽田空港ほか)

➢ 江東区に本拠を置くバスケットボールチームへの協賛

<https://www.toyokanetsu.co.jp/info/2024/0701/000806.html> アルバルク東京

<https://www.toyokanetsu.co.jp/info/2024/0912/000825.html> 東京ユナイテッドバスケットボールクラブ



ALVARK
TOKYO





ACTION FOR THE FUTURE

期待を超える実行力で、未来を支えるチカラになる

当資料に関するお問い合わせ先

トーヨーカネツ株式会社

コーポレート本部 経営企画部

TEL:03-5857-3333 FAX:03-5857-3170

<https://www.toyokanetsu.co.jp/>

コード番号:6369 東証プライム



注意事項

本資料に記載されている計画、予測または見通しなど将来に関する事項は、種々の前提に基づき策定したものであり、将来の業績等を保証するものではなく、今後様々な要因により変動する可能性があります。